

陸連時報 第三

題字は平沼亮三(初代陸連会長)の書

2013

1

月号
平成25年

強化関連情報

強化委員会

2012年度第1回日本グランプリシリーズ協議会報告

10月12日（金）、岸記念体育会館5階会議室において2012年度第1回日本グランプリシリーズ協議会を開催した。

本協議会は、各大会主催者、競技運営委員会、強化委員会から2012年度大会の報告を行い、それぞれの課題について2013年度日本グランプリシリーズに如何に反映させてもらうかを主に協議した。

以下その概要を報告する。

1 概要

日時：2012年10月12日（金）13：00～14：30

会場：岸記念体育会館 5F 504会議室

参加者：尾縣専務理事

原田強化委員長

吉儀競技運営委員長

木内強化副委員長

兵庫陸上競技協会

広島陸上競技協会

静岡陸上競技協会

陸連事務局

風間事務局長 他関係者

2 議事

1) 議題

- 1 2012年度大会の反省、2013年度大会への要望
(大会主催者・競技運営委員会、強化委員会)
- 2 各大会期日
- 3 2013年日本グランプリシリーズ関連スケジュールの確認

2) 協議内容

協議では、2012年度大会の反省を元に、2013年度

大会の競技運営、開催期日、種目配置などについて協議した。ノングランプリ種目の開催、種目の実施時間などの強化委員会の要望と、大会主催者の意見をヒアリングし、2013年度大会に向けての方向性を議論した。

また、2012年度大会はオリンピックの選考競技会ということもあり、各大会に1名のJTOを派遣し、各主催陸協の協力の下に大きな問題もなく競技運営が進められたことが報告された。

2013年度日本グランプリシリーズの大会期日、種目、運営の詳細については、各大会主催者と調整の上、2013年1月開催予定の第2回日本グランプリシリーズ協議会にて決定させていただくこととして、協議会を終えた。

なお、決定後陸連広報、時報等で2013年度日本グランプリシリーズの詳細を公表する。

強化委員会記者懇親会報告

9月20日の原田康弘強化委員長、10月9日の副委員長および11月1日の組織体制の発表を受けて、新しい強化委員会のメンバーの紹介をする報道関係者との懇親会を下記にて開催した。

日時：11月9日（金）15時00分～

場所：味の素ナショナルトレーニングセンター

研修室1・2

参加者：尾縣専務理事

原田康弘理事・強化委員長

強化委員会副委員長・各ブロック長・幹事

報道関係者

強化委員会組織図

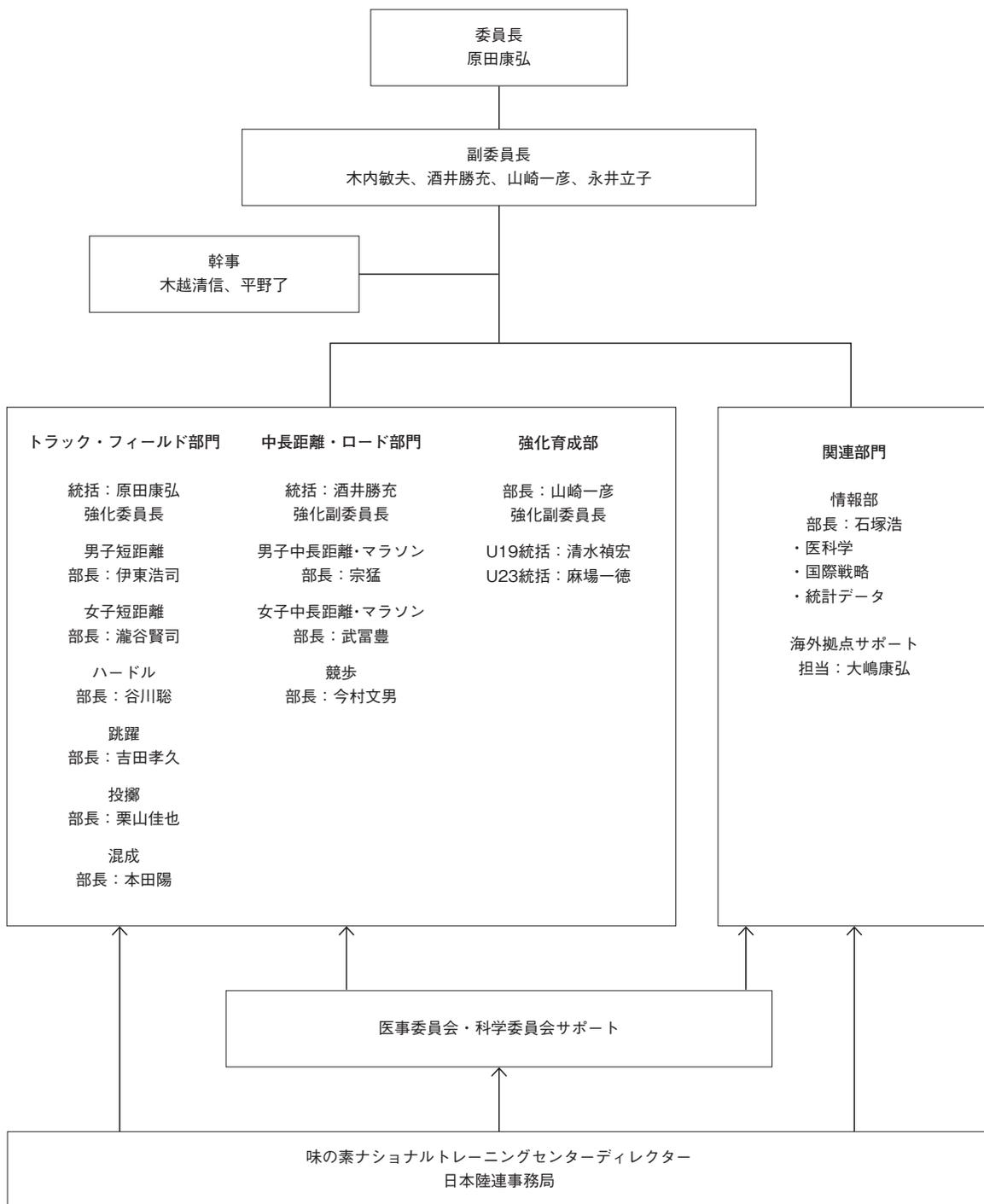


表1 2012年度強化委員会委員一覧

男子 短距離部	部長	伊東 浩司	甲南大学
	副部長	土江 寛裕	城西大学
	幹事・委員	小島 茂之	アシックス
	委員	小坂田 淳	大阪ガス
		簡 優好	横浜市立横浜サイエンスフロンティア高校
科学スタッフ	小林 海	目白大学	
女子 短距離部	部長	瀧谷 賢司	大阪成蹊大学
	副部長	中村 宏之	北海道ハイテクノロジ専門学校
	幹事	太田 涼	埼玉大学
	委員	青戸 慎司	中京大学
		石田 智子	長谷川体育施設
科学スタッフ	松尾 彰文	国立スポーツ科学センター	
ハードル部	部長	谷川 聡	筑波大学
	副部長・幹事	櫻井 健一	国際武道大学
	委員	千葉 佳裕	城西大学
		浅見 公博	立命館大学
		平岩 時雄	平岩スポーツコンサルタント
科学スタッフ	森丘 保典	日本体育協会	
投擲部	部長	栗山 佳也	大阪体育大学
	副部長	等々力信弘	ミズノ
	幹事・科学スタッフ	田内健二	中京大学
	委員	岡野 雄司	日本大学
		山崎 祐司	土浦湖北高校
高梨 雄太		順天堂大学	
佐々木大志		東京女子体育大学	
與名本 稔		東海大学	
科学スタッフ	村上 雅俊	徳山大学	
跳躍部	部長	吉田 孝久	筑波大学スポーツR&Dコア
	副部長	青木 和浩	順天堂大学
	幹事・委員	杉林 孝法	星稜大学
	委員	今井 美希	至学館大学
		小林 史明	日本体育大学
小賦 肇		名桜大学	
広川龍太郎		東海大学	
杉本 誠		関西学院大学	
委員・科学スタッフ	小山 宏之	京都教育大学	
混成部	部長	本田 陽	中京大学
	副部長	松田 克彦	名古屋学院大学
	幹事	田代 章	東京メディカル・スポーツ専門学校
	委員	征矢 範子	筑波大学付属高校
		眞鍋 芳明	国際武道大学
科学スタッフ	松林 武生	国立スポーツ科学センター	

男子 中長距離 マラソン部	部長	宗 猛	旭化成
	副部長	佐藤 敏信	トヨタ自動車
	幹事	吉川 三男	富士通
	委員 (マラソン担当)	明本 樹昌	ホンダ
		黒木 純	三菱重工長崎
(長距離担当)	渡辺 康幸	早稲田大学	
	両角 速	東海大学	
	高岡 寿成	カネボウ	
(中距離担当) ※男女兼任	平田 和光	自衛隊体育学校	
	近野 義人	セントラルスポーツ	
科学スタッフ (男女兼任)	門野 洋介	仙台大学	
女子 中長距離 マラソン部	部長	榎本 靖士	筑波大学
	部長	武富 豊	天満屋
	副部長	河野 匡	大塚製薬
	幹事	山下佐知子	第一生命
	幹事	山中美和子	ダイハツ
委員 (マラソン担当)	廣瀬 永和	シスメックス	
	長 沼 祥 吾	マルチサポート事業・女子マラソン担当	
	(長距離担当)	永山 忠幸	ワコール
野口 英盛		積水化学	
(中距離担当)	十倉みゆき	立命館大学	
	山田 里美	資生堂	
科学スタッフ (男女兼任)	杉田 正明	三重大学	
競歩部	部長	今村 文男	富士通
	副部長	小坂 忠広	錦城特別支援学校
	幹事	清水 茂幸	岩手大学
	委員	柳澤 哲	協和
		坂倉 良子	国士舘大学
科学スタッフ	三浦康二	成蹊大学	
情報部	部長	石塚 浩	日本女子体育大学
	副部長	杉田 正明	三重大学
		吉田 孝久	筑波大学スポーツR&Dコア
	委員	長 沼 祥 吾	マルチサポート事業・女子マラソン担当
		有川 秀之	埼玉大学
沃 永 華		新緑貿易	
高橋 克実		陸上競技マガジン	
松林 武生	国立スポーツ科学センター		
	平野 了	日本陸上競技連盟事務局	

表2 2012年度強化委員会強化育成部委員一覧
※○は主任

部長	山崎 一彦	福岡大学
副部長	U19統括	清水 禎宏 松江北高校
	U23統括	麻場 一徳 都留文科大学
	高体連	中山 桂 北条高校
	中体連	前野 一浩 川口市立戸塚中学校
幹事	遠藤 俊典 青山学院大学	

	U19		U23	
	統括：清水禎宏		統括：麻場一徳	
短距離・ハードル	○杉井将彦	浜松市立高校	青戸 慎司	中京大学
	小野原英樹	小倉東高校		
	高橋 和裕	浜名高校		
	松永 成旦	鳥栖工業高校		
	田川さなえ	洛北高校		
	吉田 良一	足羽高校	荻部 俊二	法政大学
	雪下 良治	会津学鳳高校		
中・長距離	○荻原知紀	北九州市立高校	両角 速	東海大学
	足立 幸永	西脇工業高校	高岡 寿成	カネボウ
	森政 芳寿	興譲館高校	十倉みゆき	立命館大学
	岩本 真弥	世羅高校	山中美和子	ダイハツ
	有川 哲蔵	神村学園高校		
跳躍	○伊藤信之	横浜国立大学	囡子 浩二	筑波大学
	小松 隆志	高知農業高校		
	福岡 博樹	希望ヶ丘高校		
	田中 光	前橋第三中学校		
	渡邊 容史	新居浜東高校		
	花岡 麻帆 (兼務:女子)	成田国際高校		
	○石井田茂夫	花園高校	田内 健二	中京大学
知念 信勝	北谷高校			
小林 隆雄	東京高校			
高橋 直之	進修館高校			
松井 江美	大阪高校			
野口 安忠	九州情報大学			
競歩	塚田美和子	花巻北高校	三浦 康二	成蹊大学
女子担当	北森 郁子	五條高校		
科学スタッフ	持田 尚	横浜市スポーツ医学センター		

2012国際千葉駅伝報告

強化委員会 副委員長 中長距離・ロード部門

統括 酒井勝充 (日本代表チーム監督)

日 時：2012年11月23日 (金)

場 所：千葉市 (千葉県総合スポーツセンター陸上競

技場をスタート・フィニッシュとし、ポー

トタワー・QVCマリンフィールド・幕張メッ

セ・幕張ベイタウンを通る日本陸連公認マ

ラソンコース42.195km)

総合成績：2位 2時間5分16秒

1区 大迫傑 (早稲田大学)

5km 13分31秒 (区間2位)

2区 吉川美香 (パナソニック)

5km 15分22秒 (区間2位)

3区 窪田忍 (駒澤大学)

10km 29分01秒 (区間5位)

4区 尾西美咲 (積水化学)

5km 16分10秒 (区間2位)

5区 上野裕一郎 (エスビー食品)

10km 28分46秒 (区間2位)

6区 新谷仁美 (ユニバーサルエンターテインメント)

7.195km 22分26秒 (区間2位) ※区間新

補欠 藤本拓 (トヨタ自動車)

補欠 松崎璃子 (積水化学)

総評

日本代表チームは、ロンドンオリンピック女子10000m 9位の新谷選手、同じく10000m 16位の吉川選手、2011年ユニバーシアード男子10000m 優勝の大迫選手をはじめ、日本のトップクラスをエントリーし、3大会ぶりの優勝を目指した。

レースは1区から大迫選手が積極的なレース運びを見せ、先頭のニュージーランドから2秒差で2区へタスキをつないだ。

2位でタスキを受けた2区吉川選手は、区間新をマークしたケニアに逆転を許したが、先頭ケニアと2秒差の2位でタスキを3区の窪田選手につないだ。

3区ではケニアとのマッチレースとなり、最終的に秒差なしの2位でタスキを尾西選手につないだ。

尾西選手も区間2位と奮闘したが、先頭を行くロンドンオリンピック女子マラソン銀メダルのプリスカ・ジェプトゥー選手（ケニア）に差を開けられ、2位で上野選手につないだ。

国際千葉駅伝では1区での起用が多い上野選手であったが、5区の10km区間でも積極的な走りを見せ先行するケニアを追い、後ろから迫るロンドンオリンピック男子10000m銀メダリストのゲーリン・ラップ選手（アメリカ）からも逃げ切り、区間2位の走りで行くケニアを逆転し、先頭で新谷選手にタスキを繋いだ。

3大会ぶりの優勝を目指す日本チームのアンカー新谷選手は、昨年の区間新記録を10秒上回る走りで2位のケニアから逃げ切りを

図ったが、途中逆転を許し10秒差の2位となった。

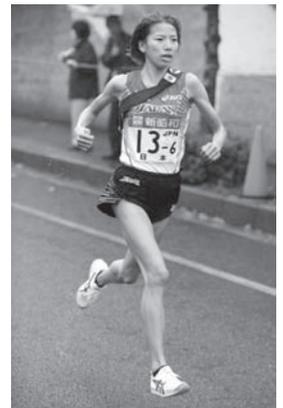
国内で世界レベルの選手と直接競うこととなった本大会であったが、それぞれの持ち味は発揮できたもののあと一歩で優勝を逃す結果となった。これから長距離は、マラソンや駅伝などのロードシーズンにシフトされていくが、ロンドンオリンピックを終え、来年のモスクワ世界選手権、そして2016年のリオデジャネイロオリンピックに向けて、トラック種目においても世界との距離を縮めていけるよう、各チームとの連携のもと強化を進めていきたい。



1区・大迫傑選手



2区・吉川美香選手



6区・新谷仁美選手



日本代表チームのメンバー

2012年度 U-15陸上競技指導者中央研修会 報告

普及育成委員会 舟橋 昭太

2012年度U-15陸上競技指導者中央研修会が、11月3日(祝・土)に味の素ナショナルトレーニングセンター陸上トレーニング場で行われた。この研修会は、中学校における陸上競技部の減少・陸上競技指導者不足が近年叫ばれている中、陸上競技初心者指導できる指導者育成、陸上競技の底辺の拡大を目指し基本的な理論や日常での練習方法を学ぶ目的で行われている。

中央研修会は関東近県を対象にして25名の参加者で研修が行われた。

講師は、松田克彦(強化委員会・混成競技副部長)、沼澤秀雄(普及育成委員会・委員)、桜井智野風(普及育成委員会・委員)、宮崎明世(普及育成委員会・委員)の各氏が務めた。内容は、理論講習と実技(ハードル・走高跳・砲丸投)を行った。

開校式では、講師・スタッフの紹介をして参加者の自己紹介を行った。

理論講習は、桜井氏が担当しコーチングスキルを中心に60分行った。その後、15分間受講生にウォーミングアップを行ってもらい実技講習を行った。

ハードルでは沼澤氏が担当した。軸を意識した踏切を大切にしたりリード脚・抜き脚等をミニハードルや小学生用ハードルを使用しながら技術的なつまずきや改善方法を説明・模範を行ってくれた。参加者も同じように動きや技術的な難しさなどを体験した。

走高跳では、松田氏が指導を担当した。初めて走高跳を始める中学生を対象にした簡単なドリルをはじめ中級者・上級者向けのドリルを多く紹介しわかりやすくポイントを伝えた。また、マットがなくても走高跳の練習ができるドリルも紹介し、好評であった。

砲丸投では、宮崎氏が指導を担当した。メディシンボールを使用した基本的な投げ方、砲丸投の突きだし、立ち投げ、後ろ投げを行った。実際に砲丸を使用して持ち方、構え方、グライド投法、ターボジャブの持ち方、構え方、投げ方を受講者に実技をまじえてポイント等を紹介した。

受講生の怪我を心配したが、怪我もなく3種目とも自ら動き、写真やビデオ撮影をし、内容を忘れないうちにノートに整理するなど真剣さが強く伝わってきた。

閉講式の時に受講生に感想を言ってもらったが「基本的な知識を改めて確認することが出来た。」「講習でコーチングスキルを勉強したが次回はコンディショニングなども受講したい。」「サッカーが専門であるが陸上を教えている。中級者や上級者に与えるアドバイスなどが理解できて今後に生かしたい。」「長距離が専門なのでハードル、走高跳、砲丸投の指導方法やアドバイスは大変参考になった。」など色々な感想を頂いた。

今回の研修会は、千葉陸協の協力もあり募集定員に近い応募があった。北海道など遠方からの参加者もあり、指導者としての正しい知識を身に付ける機会を求めている方が全国に多くいるというのが現状である。中央研修会は味の素ナショナルトレーニングセンターという、普段一般の方は入ることのできない陸上トレーニング場を会場として使用でき、充実した環境で行うことができています。今後は、中央研修会の会場を関東内で募集して実施するなど実施場所や方法を考えるのも良いのではないかと思います。この研修に参加することは指導者として大変有意義な研修になることは間違いないと感じている。もっとインフォメーションをしていきたい。

中学校の部活動は、顧問の高齢化・生徒数の減少等で廃部に追い込まれたり、活動をたくても部活がなかったり、指導者がいなかったりと様々な問題を抱えている。オリンピックでの花形種目である陸上競技。この研修会を充実させ多くの指導者の育成を行っていき、多くの陸上競技を愛する中学生を育て、その中から日の丸をつけて世界で活躍できる選手を育てていきたいと考えている。

尚、今年度は2013年1月14日(月)に福岡、2月10日(日)に鹿児島、3月2日(土)に鳥取の3会場でも地方開催する。



U-15陸上競技指導者中央研修会の様子

IAAF選手コミッション会議報告

室伏 広治 (IAAF 選手コミッション委員)

IAAFの選手コミッション会議が、9月8日、ベルギーのブリュッセルで行われた。

IAAF選手コミッションは17名で構成され、12名は世界選手権時に選手村で実施される投票で選ばれ、委員長を含む5名は経験や地域、種目バランスを考慮してIAAF推薦である。

投票で選ばれるのは12名で任期は4年だが、選挙は世界選手権の都度、2年ごとに実施され6名ずつ改選となるシステムとなっている。私は、2004年から委員をつとめているが、昨年夏にテグでおこなわれた選挙で再選され、3期目、2013年までの任期となる。

今回の会議は、昨年の選挙後、メンバー初顔合わせだったが12名が出席して行なわれた。

選手コミッションは、選手の立場から競技環境改善のための各種提言を行っており、大会のスケジュールや在り方、選手への教育、規則や規定、反ドーピング活動など幅広いテーマを議論している。

委員長は、短距離選手として活躍し、現在は、IAAFカウンスル(理事)でもあるフランキー・フレデリックス氏(ナミビア)で、委員はつぎの通りである。

トミー・エヴィラ (フィンランド)

走幅跳 2009年選挙

ナディーヌ・フォースタン・バルケール (ハイチ)

100mハードル 2009年選挙

デービー・ファーガソン・マッケンジー (バハマ)

短距離 2009年推薦

ステファン・ホルム (スウェーデン)

走高跳 2011年選挙

マリyam・ユスフ・ジャマル (バーレーン)

長距離 2011年推薦

ロナー・キブラガット (オランダ)

長距離、マラソン 2009年選挙

ベンジャミン・リモ (ケニア)

長距離 2011年選挙

マヌエル・マルティネス (スペイン)

砲丸投 2011年選挙

ロマン・メスニル (フランス)

棒高跳 2009年選挙

クレイグ・モットラム (オーストラリア)

長距離 2011年推薦

デビッド・オリバー (アメリカ)

110mハードル 2011年選挙

ゲラルディン・ピレイ (南アフリカ)

短距離 2011年推薦

ビクトリア・ポリウディナ (キルギス)

長距離 2009年選挙

モニカ・ビレク (ポーランド)

棒高跳 2011年選挙

ポーラ・ラトクリフ (イギリス)

長距離、マラソン 2009年推薦

シモン・ジロコフスキー (ポーランド)

ハンマー投 2009年選挙

室伏広治 (日本) ハンマー投 2011年選挙

今回議論された主要内容はつぎの通りである。

1. 反ドーピング活動に関する件 (特に競技会外検査について)
2. フィールド競技の風向きによる位置変更の可能性について
3. 女子十種競技実施状況調査の件
4. 投てき審判員の受傷事故防止のための年齢制限について
5. 投てき種目を普及させるための方策
6. IAAFが主催するロードランニングイベントをより盛り上げるための方策 (特に、ハーフマラソン選手権について)
7. 選手の意見を反映させるためのfacebookの活用

会議の冒頭には、IAAF本部で反ドーピング活動の責任者をつとめるドレイ氏から、IAAFが実施している反ドーピングプログラム詳細についてのプレゼンテーションが行なわれた。

また議論のなかで、投てき種目普及に関しては、私を含む投てきを専門とする3委員による作業部会を立ち上げることとなった。

今回の会議で議論された内容は、選手コミッションからの提言事項として、秋に実施されるIAAF理事会で報告される。



IAAF選手コミッションメンバー

アジアマスターズ陸上競技協会総会参加報告

IAAF マスターズ委員会委員 室伏 重信

台北において、11月2日(金)～7日(水)、アジアマスターズ陸上競技協会(鴻池清司会長)が主催するアジアマスターズ陸上競技選手権大会が開催された。期間中の11月5日(月)に行われた同協会の総会に参加したので、以下の通り報告する。

私は、昨年行われた国際陸上競技連盟総会で、IAAFマスターズ委員会委員に再選されたが、アジアで委員に選出されたのは、中国と日本の2人だけである。中国の委員は、アジアマスターズ協会の副会長職にあるが、アジアの声を世界に伝える重要性から、私も同協会名誉副会長に任命されており、総会に出席することとなった。

アジアマスターズ選手権には、18か国・地域から1730名のエントリーがあり、日本からは、264名もの出場があった。

中国からも130名のエントリーがあったが、事務手続きの問題から、直前になって参加が取りやめになったという。

総会には、アジアの加盟24か国・地域中、15か国・地域が出席した。

鴻池会長による議事進行により、つぎの内容が審議された。

- ・鴻池会長あいさつ
- ・前回総会議事録承認
- ・アジアマスターズ活動報告
- ・決算と予算
- ・第18回大会(2014年)開催地決定
- ・第19回大会(2016年)開催地決定
- ・ゴールドマスターズ京都2013の案内

2014年大会は北上市

このなかで、特筆すべきは、2年後のアジアマスターズ選手権開催地に、岩手県の北上市が全会一致で決定したことである。立候補都市は、北上のみであった。

総会前には、関係者から、アクセスの問題や地震の影響などについて、問い合わせもあったが、総会では、北上市関係者によるビデオ映像を利用した開催地解説や複数の国内全国大会開催実績を強調した招致アピールにより、異論もなく、2014年の開催地として承認された。日本での開催は、1998年の沖縄以来、2回目とのことである。

ひとつ要望として提議されたのは、回を追うごとに参加選手が増加している現状を踏まえ、予定した期間内ですべての競技が実施できるように競技日程作りへの配慮についてであった。

2016年大会はシンガポール

鴻池会長によると、過去のアジアマスターズ選手権は、開催地探しに苦労したことがあったという。そうした経緯から、開催地決定は、2年前が通例であったのだが、今回、シンガポールから2016年大会への立候補申請が寄せられた。シンガポールでは、国策で、スポーツ振興に力を入れ始めており、国内に巨大スタジアムが建設予定であるという。シンガポールは、2010年に、IOC主催のユースオリンピックを成功させたという実績もある。

スポーツ省とシンガポール陸連とが共同で推進している、国際スポーツイベント誘致計画のなかで、アジアマスターズ選手権も対象となったということであった。

シンガポールでは、マスターズ部門が、陸連と一体とのことで、招致プレゼンは、陸連の専務理事補が行った。スタジアム建設計画も含めた詳細な内容であり、鴻池会長が、他国に立候補の意向がないことを確認のうえ、シンガポー

ル開催が決定となった。

ゴールドマスターズ京都開催

マスターズへの参加年齢は、IAAF規則では、男性が40歳、女性が35歳からとなっているが、アジアマスターズの鴻池会長は、高齢でも競技を継続している方々への大会出場チャンスを広げるべく、アジア独自の試みとして、「ゴールドマスターズ大会」を開催している。

この大会は、陸上競技と水泳競技とが共同で開催するもので、50歳以上に参加資格がある。

2010年9月に、京都で第1回大会が開催され、2011年には東京での第2回大会が計画されていたが、震災の影響により中止となった経緯がある。この大会が、再び京都で、来年10月に開催されることが、総会で報告された。

アジアの現状

アジアは、経済格差が顕著な地域であるが、近年、スポーツへの関心はどの国でも高まっているようである。マラソンブームは、日本だけの現象ではなく、シンガポール、香港、ムンバイ(インド)などで大規模大衆マラソンが開催されているが、競技場で実施される陸上競技への参加も国や年齢の枠を超え顕著になっている。

今回のアジアマスターズ選手権には、地元台北から350名、インドから343名、スリランカから210名、そして中国からも130名のエントリーがあった。先述の通り、中国は手続きの問題で直前のキャンセルとなってしまったが、マスターズ陸上は、ますます大きくなっていく印象である。

一方で、総会などでは、いくつかの問題も提議されることとなった。

急激に増加するマスターズ競技者を受け入れる国内団体が、リーダーシップをとることができず、別の団体が存在するという問題がそのひとつである。スポーツの国際団体には、各国で承認された1団体のみが加盟するというのが、世界の大原則である。インドから、2つの団体が正当性を主張するという混乱があったことが報告されたが、現在は、国内組織が統一され問題解決をみたという。

また各国の陸連とマスターズ連盟の関係が、希薄な国がいくつかあるとのことであった。日本は、日本マスターズ連合は、日本陸連の協力団体と位置付けられており、世界も同様で、国際マスターズ陸上競技(WMA)連盟はIAAFの協力団体であり、双方の組織が良好な関係にある。

しかし台北の場合、両者の協力関係が希薄なことから、競技運営にいささかの不便が生じているようであった。

一方で4年後のアジアマスターズ選手権開催地に決定したシンガポールは、陸連とマスターズが一体であり、効率的な競技運営が期待される。



アジアマスターズ陸上競技協会理事会メンバー

AIMS理事会及び30周年記念式典に参加して

副会長 澤木 啓祐 (AIMS 理事)

国際マラソン・ロードランニング協会 (AIMS) の理事会及び30周年記念式典がギリシャのアテネで2012年11月8日～10日の日程で開催され、AIMS理事として参加したので、報告をする。

【理事会報告】

AIMSの理事会の構成はボラオ会長 (スペイン)、女性のモラレス副会長 (メキシコ)、キャンデイ副会長 (オーストラリア) とジャマーレ (チリ)、モース (アメリカ)、ボショフ (南ア)、ブコプザ (フランス)、ミルデ (ドイツ) と筆者 (日本) の理事構成 (下線が新任) で、それに財務担当としてボカ (アメリカ) とジョーンズ専務理事 (イギリス)、コンサルタントとして広報・マーケティング部門担当者、AIMSマラソン・ミュージアム担当者、機関誌“ディスタンス・ランニング”制作担当者等々で構成される。

世界で最古の近代マラソンのボストン・マラソン (アメリカ)、高速マラソンとして有名なベルリン・マラソン (ドイツ)、ウルトラマラソンとして歴史のあるコムレード・マラソン (南ア)、風光明媚なニースからカンヌを走るリビエラ・マラソン (フランス)、ランニングの普及が著しい南米のサンチャゴ・マラソン (チリ) 等、現在のマラソンを語るに相応しいエリートマラソンからツーリズムに主眼を置いたマラソンまでランニングの諸問題を様々な角度から議論できる多彩で広い地域に分散した理事の構成である。また筆者を含め陸上競技連盟の副会長が2名、そして弁護士資格のある理事が2名いる。

又、専門家としての意見を適宜コンサルタントから受け、理事会は進行してゆく。

通常、理事会の進行は、広報、機関誌、テクニカル、メンバーシップ、マーケティング、Webサイト、社会貢献事業であるAIMSチルドレン・シリーズ、AIMSマラソンミュージアムそしてロードランニングコミッションの報告をまず行い、その中で課題を絞り、サブコミティでより具体的に議論し、翌日再度理事会で議論し決議するという過程を経るが、今回は新任理事が3名いたため、報告後全体で課題について話し合うこととした。

2000年と対比すると会員 (加盟レース) 数はすでに2.5倍に増え、98ヶ国、344レースを数える規模となった。日本でも新たに京都マラソン、神戸マラソン、ぎふ清流ハーフマラソンの加盟があり、合計18レースでアジア最大の会員数である。会員数の増加により

収支も大幅ではないが黒字基調で、特段の問題は見当たらない。下記が主な課題として話し合われた。

1. Webサイトの充実を図る

Webサイトの充実が急務であり、機関誌ディスタンス・ランニングのWebバージョンも誕生したが、より魅力のあるサイトを制作することによりアクセスを増やすことが、又スポンサーを獲得する方法でもある。

2. スポンサー

現在少しカテゴリーが重複しているスポンサーカテゴリーの平準化をはかり、スポンサーを獲得しやすい環境をつくる必要があるが、スポンサーに魅力ある企画を提供してゆく必要がある。

3. 社会貢献

年3回行われているAIMSチルドレンシリーズ等、社会貢献に軸足を置いた企画を実行しているが、金額を考へてもスポンサーにとって当該企業の売り上げに直結するマーケティング活動の一環というよりも、企業の社会貢献 (CSR活動) を前面に押し出してゆくことの方が、スポンサーの獲得も容易ではないか。

4. その他

従来行われたAIMS/ASICS最優秀ランナーのゴールドシューズの表彰については本年のみとし、次回の2013年11月のガラ (アテネ) からは投票で1位から3位までに選ばれた選手を招待し、賞金をスポンサーの“OPAP”*の支援金から充当し、発展させてゆくことになった。

*スポーツくじ運営団体

【30周年記念式典】

11月9日にギリシャの首都アテネで、AIMS誕生とアテネ・クラシック・マラソン創設30周年記念式典が、AIMSとギリシャ陸連が主催し、ギリシャ国内のスポーツを幅広く支援している、スポーツくじ運営団体である“OPAP”がスポンサーとなり開催され、ギリシャ国内外から300名程の関係者を招き開催された。

式典はAIMS会長、ギリシャ陸連会長、スポンサーである“OPAP”の代表がそれぞれ祝辞を述べ、ガラは始まり、主に4つの表彰部門で構成された。

1. 優秀選手表彰

昨年男子マラソンで世界記録を出したパトリック・マカウ選手 (ケニア) と、1982年のヨーロッパ選手権 (アテネ・クラシック・マラソンコース) で優勝したロザ・モタ選手 (ポルトガル) が表彰された。また地元ギリシャからも2004年にギリシャ人としてコースレコードを樹立した、女性のニコス・ポリアス選手

と、27回、24回完走した選手達も表彰を受けた。

2. 関係者表彰

AIMS マラソンミュージアム担当のコンサルタントとして活躍しているAIMS創設者の1人であるH・ミルデ氏（ドイツ）、そしてIAAFを代表して、名誉会計のバラニチェフ氏（ロシア陸連会長）、そしてギリシャ陸連前会長のセバステイス氏が表彰を受けた。

3. コース計測者表彰

コース計測を、1995年から最も長くAIMS/IAAF公認計測員として活躍しているデラサール氏（フランス）が表彰された。

4. 大会表彰

式典の最後に、大陸別にマラソンの普及発展に貢献のあった歴史の古い代表的なマラソン大会の表彰があり、次の5大会が表彰を受けた。

コムレード・マラソン1921～（アフリカ：南ア）

ボストン・マラソン1897～（北中南アメリカ：アメリカ）

福岡国際マラソン1947～（アジア：日本）

コシチ・マラソン1924～（ヨーロッパ：チェコ）

ロトルア・マラソン1965～（オセアニア：ニュージーランド）

福岡国際マラソンを育ててこられた関係の方々をはじめ、日本のランニングムーブメントを支えてこられた各大会関係者、指導者の方々、そして世界にチャレンジされた多くのランナーにも心からの感謝を捧げ、代表して表彰を受け、大変感銘致しましたことを報告申し上げます。



AIMSパコ会長（左から3人目）を囲んだ、5大陸の代表（右端は筆者）

来年からは、11月のアテネ・クラシック・マラソンのこの時期に、この式典が“ベスト マラソン オブザ イヤー表彰式ガラ”として定例化し、同時に今回同様AIMSボード・ミーティング、マラソン市での採火式、マラソンシンポジウム等も開催される。

【AIMSの歩み】

1982年にボストン、ニューヨーク、ベルリン、ロ

ンドンをはじめとして、日本からは福岡、東京、東京女子、大阪女子の4大会とアジアからもソウル国際マラソンが、そしてアフリカを除くすべての大陸から創設メンバーとして28レースが、国際的なレースディレクターの情報交換と国際陸連との調整窓口等、第一次ランニングブームを背景とした国際的な組織として結成された。

当時、世界ではマラソンサーキットの計画や、禁止されていた金銭による選手の勧誘、引き抜き等、日本のマラソン界のために世界の最新の動きを常に把握しておかないと、世界の流れに取り残されるという当時の日本陸連青木半治会長の強い危機意識から、翌1983年の東京マラソンの際、京王プラザホテルで第一回総会を招聘し、世界にむけて日本のマラソンの現状や考え方を知らせる機会と意見交換の場を積極的に設けた。又当時の帖佐寛章専務理事（現顧問）をAIMSの理事として派遣し、ウイル・クロニー会長（ボストン）、クリス・プレッシャー会長（ロンドン）そして第三代ボブ・ダグリッシュ会長（グラスゴー）の急逝により、1990年から帖佐氏が会長代行を務め、1991年の総会で第四代会長に選出された。

この間、特筆すべきものとして、ジョーンズ・カウインターを使用した世界中誰でも実施できる自転車による計測システムを開発し、IAAFとの協調のもとに計測員を育成する枠組みとコースの認定制度を構築した。この計測システムと計測員の普及が、今まで困難であったマラソンを含むロードレースの距離の標準化ができるようになり、ひいては、2003年パリで行われたIAAF総会で議論され可決された、ロードレースにおける“世界新記録”の公認へと発展するのである。

そんな環境の中、多くの大衆に支持されるランニングムーブメントの重要性によりIAAFも気がつき、ディアック会長は2007年指名者で構成される組織『ランニングコミッション』を立ち上げ、ロードレースの専門家による取り組みを本格化させた。その際にも専門家集団としてのAIMSがコミッションメンバーの一翼を担い、IAAFのロードレースについての活動についてもAIMSの意見が反映できる体制となって、今日に至っている。その意味では、帖佐会長はIAAFとの協調について留意され、AIMS理事にも常にIAAFへの統括団体としての意味を理解させ、協調関係を特に促進させた貢献は多大であった。

【おわりに】

今回の受賞を機会に、強い日本選手を育てるという日本陸連本来の役割を十分果たしながら、変化するランニングの今日的な発展する姿にも目を向け対応することが日本陸連にも求められている時代と再認識した。

2012年度「キッズアスリート・プロジェクト 夢の陸上キャラバン隊」について

事務局

2006年11月の東京会場を皮切りに、毎年全国各地で行っている「キッズアスリート・プロジェクト 夢の陸上キャラバン隊」。2011年度(2012年3月)までに全国45会場で21,665人の児童、延べ212人の選手が参加して行ってきました。今年度は9月からスタートし、全国9会場+離島の全10会場で開催を予定しております。本時報では、第4回開催の徳島会場、第5回開催の千葉会場、第6回開催の兵庫会場、第7回開催の愛知会場までの報告を行います。

■徳島会場

日 時：2012年10月24日(水)

会 場：阿波市吉野グラウンド

参加小学校：阿波市立柿原小学校、一条小学校

(児童数：216人)

後 援：阿波市、阿波市教育委員会

運営協力：一般財団法人徳島陸上競技協会

特別協賛：株式会社ナイキジャパン

参加選手：短距離・金丸祐三(大塚製薬)

ハードル・八幡賢司(モンテローザ)

走高跳・菅井洋平(ミズノ)

やり投・村上幸史(スズキ浜松AC)

徳島の会場は、阿波市吉野グラウンド。キッズプロジェクトの会場として、はじめて、学校外で行いました。参加した2つの小学校の中間地点にあり、いつも子どもたちが利用しているグラウンドです。参加したのは、地元大塚製薬所属、今夏のロンドンオリンピック400m、4×400mリレーに出場した金丸祐三選手、同オリンピックで選手団主将を務めた、やり投の村上幸史選手、モンテ

ローザ所属の八幡賢司選手、ミズノ所属の菅井洋平選手。

デモンストレーションでは、まず八幡選手が60mHで児童と対決。豪快なハードリングでゴールを駆け抜けければ、菅井選手は児童たちの想像を超える跳躍を披露、金丸選手は児童2名を相手にそのスピードと持久力を見せつけました。最後に登場した村上選手。村上選手のヴォータックス投は100mを超える大投擲となり、会場にいた全員から大歓声が上がりました。

レッスンでは、選手と一緒に「走る」「跳ぶ」「投げる」を体験。選手たちの丁寧な対応に、児童たちも笑顔いっぱい楽しみながら積極的に取り組みました。

最後は選手と児童、先生がチームを組んでのリレー対決。柿原小学校、一条小学校の代表が2チームずつ、4チームに分かれ、学校の名誉をかけて激突！菅井選手率いる一条小学校が見事勝利を収めました。



金丸選手のデモンストレーション



リレーの走順を決める村上選手チーム。村上選手の本プロジェクトへの参加は11回目

■千葉会場

日 時：2012年11月13日(火)

場 所：千葉県船橋市立西海神小学校

(児童数：456人)

後 援：船橋市教育委員会

運営協力：千葉陸上競技協会

船橋市立船橋高等学校陸上競技部

特別協賛：株式会社ナイキジャパン

参加選手：短距離・高瀬慧(富士通)

ハードル・田野中輔（富士通）
走高跳・戸邊直人（筑波大学）
投てき・海老原有希（スズキ浜松AC）

千葉会場は、ロンドンオリンピック女子やり投に出場した海老原有希選手をはじめ、地元富士通所属の高瀬慧選手・田野中輔選手、そして、千葉県出身の戸邊直人選手の4名が参加しました。



海老原選手が子どもたちを指導

デモンストレーションでは高瀬選手が軽やかで美しい走りを見せ、田野中選手はパワフルなハードリング、海老原選手がやり投、ソフトボール投で大投てきを披露、そして戸邊選手の躍動感あふれる跳躍に、児童からは大きな拍手と歓声が沸き起こりました。レッスンでは、選手と一緒に「走り」「投げ」「跳ぶ」ことができ、子どもたちも夢中になって取り組んでいました。選手と児童がチームを組んでのガチンコリレー対決では、ゴール直前までもつれる大接戦の末、海老原選手率いるチームが優勝し、会場はこの日一番の盛り上がりを見せました。



戸邊選手の手の大きさにも驚きの子どもたち

■兵庫会場

日時：2012年11月16日（金）
会場：兵庫県神戸市立東垂水小学校（児童数：315人）
後援：神戸市、神戸市教育委員会
運営協力：一般財団法人兵庫陸上競技協会
特別協賛：株式会社ナイキジャパン
参加選手：短距離・江里口匡史（大阪ガス）
ハードル・三田恭平（立命館大学）
走高跳・土屋光（モンテローザ）
やり投・ディーン元気（早稲田大学）

「走る」デモンストレーションは、45m走で実施！ 江里口選手、代表児童、先生が対決し、江里口選手が素晴らしい加速を見せ、5mあったハンデをものともせず圧勝！ また、三田選手は50mハードルで「ハードルなし」の児童と対決。高いハードルを難なく超える姿に児童からは歓声があがりました。ディーン選手は児童とヴォータックス投で対決！ ディーン選手は体育館の屋根を超え、ヴォータックスが見えなくなる大投てきで会場を沸かせました。土屋選手の走高跳のデモンストレーションは児童た

ちの手拍子のリズムに乗って、今度は背面跳で2mを見事クリア！

盛り上がった雰囲気、そのまま5、6年生はレッスンへ。選手たちはどうやったら速く走れるのか、ハードルをスムーズに超えられるのか、高く跳べるのか、遠くに投げられるのかを児童たちへ伝授しました。最後はキッズアスリート恒例のリレー対決！ ディーン選手+



江里口選手のデモンストレーション

6年1組チームは、ディーン選手自らが1走を務め、そのリードを児童たちが一生懸命守りきり、優勝しました。代表でチャレンジしてくれた児童や代表で挨拶してくれた児童が「中学に入ったら陸上部に入ろうと思っている！」と熱いうれしいメッセージをくれ、ディーン選手はいつか一緒に投げ合いたいと応えました。



リレー優勝・ディーン選手チーム

■愛知会場

日 時：2012年11月22日（木）
 場 所：愛知県名古屋市立橋小学校（児童数：307人）
 後 援：名古屋市、名古屋市教育委員会
 運営協力：一般財団法人愛知陸上競技協会
 特別協賛：株式会社ナイキジャパン
 参加選手：短距離・市川華菜（中京大）
 ハードル・中村明彦（中京大）
 走幅跳・荒川大輔（NOBY T&F CLUB）
 投てき・村上幸史（スズキ浜松AC）

愛知会場は、地元愛知県出身でロンドンオリンピック4×100mリレー日本代表の市川華菜選手、400mH日本代表の中村明彦選手をはじめ、ロンドンオリンピックやり投日本代表のスズキ浜松AC所属・村上幸史選手、今年度日本選手権 走幅跳優勝のNOBY T&F CLUB所属・荒川大輔選手の4名が参加しました。

デモンストレーションでは、まず地元愛知県出身の市川選手の40m対決、中村選手の40mHハードル対決から開始。市川選手はキレのあるスタートダッシュで素晴らしい走りを見せ、中村選手は児童とのハンデをもろとせず、十種競技のパワフルさで110mHを颯爽と走り

抜けました。

村上選手がやり投でグラウンドの端から対角端の砂場まで素晴らしい投てきを見せ、会場からは大歓声！ 野球ボールの球速対決では145km/hと野球選手顔負けのスピード球で大いに盛り上がりました。

そして荒川選手の跳躍では、砂場からはみ出しそうなほどの躍動感ある大跳躍と着地時の砂の飛び散りに児童も大興奮！ アンコールの声で2回の跳躍を見せてくれました。

レッスンでは、選手と一緒に「走る」「投げる」「跳ぶ」を体験し、普段の体育では経験できないレッスンに子どもたちは真剣な顔で、楽しみながら積極的に取り組んでいました。

最後は選手と児童・先生の8人1チームでのガチンコリレー対決！ 抜きつ抜かれつの大接戦で、荒川選手率いる4年生チームが優勝！ 選手・児童・先生が一丸となって会場全体から大歓声と拍手が湧きあがり、この日一番の盛り上がりとなりました。



リレー優勝・荒川選手チーム



短距離対決！

大会観戦ガイド

平成24年度全国中学校体育大会 第20回全国中学校駅伝大会

- ▼日時：2012年12月16日（日）
女子11時00分／男子12時15分スタート
- ▼会場：山口県セミナーパーク・クロスカントリーコース
- ▼アクセス：JR山陽本線新山口駅から約10km（タクシー約15分）、四辻駅から約3km（タクシー約5分）、山陽自動車道山口南IC.から車で約5分、中国自動車道小郡IC.から車で約20分
- ▼コース：山口県セミナーパーク・クロスカントリーコース
男子の部（6区間18km、各区間3km）
女子の部（5区間12km、1・5区3km、2・3・4区2km）
- ▼大会公式ページ：
<http://www.diciotto.com/ekiden20/>
- ▼問い合わせ先：
全中駅伝事務局（山口市立白石中学校内）
TEL083-924-8997 / FAX083-902-7007

男子第63回 女子第24回 全国高等学校駅伝競走大会

- ▼日時：2012年12月23日（日）
女子10時20分／男子12時30分スタート
- ▼会場（スタート・フィニッシュ）：
京都府・京都市西京極総合運動公園陸上競技場
- ▼アクセス：西京極総合運動公園陸上競技場
阪急電鉄京都線西京極駅から徒歩5分、京都市バス32号・73号・80号系統「西京極運動公園前」下車徒歩5分
- ▼区間・コース：
〈男子〉男子全国高校駅伝コース7区間42.195km
・第1区10km（西京極陸上競技場－烏丸鞍馬口）
・第2区3km（烏丸鞍馬口－丸太町河原町）
・第3区8.1075km（丸太町河原町－国際会館前）
・第4区8.0875km（国際会館前－丸太町寺町）
・第5区3km（丸太町寺町－烏丸紫明）
・第6区5km（烏丸紫明－西大路下立売）
・第7区5km（西大路下立売－西京極陸上競技場）
〈女子〉女子全国高校駅伝コース5区間21.0975km
・第1区6km（西京極陸上競技場－平野神社前）
・第2区4.0975km（平野神社前－烏丸鞍馬口）
・第3区3km（烏丸鞍馬口－室町小学校前折り返し－北大路船岡山）

- ・第4区3km（北大路船岡山－西大路下立売）
- ・第5区5km（西大路下立売－西京極陸上競技場）
- ▼テレビ放映予定：NHK 総合テレビ
12月23日（日）10時05分～11時54分（女子）
12時15分～14時52分（男子）
- ▼ラジオ放送予定：NHK ラジオ第一
12月23日（日）10時05分～11時55分（女子）
12時15分～15時00分（男子）
- ▼大会公式ページ：<http://www.koukouekiden.jp/>
- ▼問合せ先：全国高等学校駅伝競走大会事務局
（京都府立北嵯峨高等学校）
TEL / FAX075-865-2700

皇后盃 第31回全国都道府県対抗 女子駅伝競走大会

- ▼日時：2013年1月13日（日）12時30分スタート
- ▼会場（スタート・フィニッシュ）：
京都府・京都市西京極総合運動公園陸上競技場
- ▼アクセス：西京極総合運動公園陸上競技場
阪急電鉄京都線西京極駅から徒歩5分、京都市バス32号・73号・80号系統「西京極運動公園前」下車徒歩5分
- ▼区間・コース：9区間42.195km
・第1区6km（西京極陸上競技場－平野神社前）
・第2区4km（平野神社前－烏丸鞍馬口）
・第3区3km（烏丸鞍馬口－丸太町河原町）
・第4区4km（丸太町河原町－北白川山田町）
・第5区4.1075km（北白川山田町－国立京都国際会館前）
・第6区4.0875km（国立京都国際会館前－北白川別当町）
・第7区4km（北白川別当町－丸太町寺町）
・第8区3km（丸太町寺町－烏丸紫明）
・第9区10km（烏丸紫明－西京極陸上競技場）
- ▼テレビ放映予定：NHK 総合テレビ
1月13日（日）12時15分～
- ▼ラジオ放送予定：NHK ラジオ第一
1月13日（日）12時15分～
- ▼大会公式ページ：<http://www.womens-ekiden.jp/>
- ▼問合せ先：
全国女子駅伝事務局
（京都新聞COM地域貢献センター）
TEL075-213-0367 / FAX075-241-5271

JAAF 財団法人北海道陸上競技協会

HOKKAIDO

〒064-0810札幌市中央区南10条西13丁目3-22
TEL : 011-520-7801 FAX : 011-520-7802
<http://hokkaido-rikkyo.jp/>

キッズアスリート・プロジェクト「夢の陸上キャラバン隊」が、9月3日(月)、日本陸連から福島千里選手・寺田明日香選手・右代啓祐選手・荒川大輔選手、道南陸協からは高平慎十選手・北風沙織選手・仁井有介選手を招き、七飯町立七重小学校(児童584名)で開催されました。

この日は大変な猛暑でありましたが、児童ならびに選手の皆さんは暑さに負けず素晴らしいパフォーマンスを披露してくれました。

午後4時から会場を函館市千代台公園陸上競技場に移し、上記選手の他、地元道南出身の野口裕史選手・岩船陽一選手・江戸祥彦選手、そして、村上幸史選手にも加わっていただき、第2ステージである陸上クリニックは小学生・中学生・高校生の300人の参加により行いました。

JAAF 秋田陸上競技協会

AKITA

〒011-0911秋田市飯島水戸454-3
TEL : 018-845-0099 FAX : 018-845-0099
<http://akita-riku.filw-web.net/>

冬季の強化対策について

トラックシーズンが終了し、本格的な駅伝・ロードの季節となった。秋田では、公式の大会はほとんど終了し、全国高校駅伝・都道府県対抗駅伝の対応に追われている。

これから、本格的な冬を迎え降雪期に入る。日本海側特有の西風と積雪により屋外での練習がままならなくなる。屋外での合宿等で対応しているが、限られた回数となってしまふ。屋内で練習できるドーム施設はあるが、複合型のため他競技・一般の利用と競合し会場の確保が難しい状況にある。そこで、県・県体協に全国大会出場チームへの優先的使用をお願いしているところである。秋田特有の冬に影響されない練習を数多くごなし、少しでも上位に食い込めるよう祈るばかりである。(文責:理事長 鈴木 文男)

JAAF 一般財団法人青森陸上競技協会

AOMORI

〒038-0021青森市安田字近野234-7 青森陸上競技場気付
TEL : 017-736-8420 FAX : 017-736-8134
<http://www.jomon.ne.jp/~arikkkyo/>

11月18日をもって12年度の競技場を使用したの競技会は全て終了いたしました。

12月23日より26日まで、今年で2回目となります日本陸連U-18ジュニア強化研修合宿が五所川原市「克雪つがるドーム」を中心に開催します。昨年度は大雪で参加した選手・指導者の皆様には大変な思いをされたことと思います。今年も寒さが予想されますのでどうぞ寒さ対策を十分にして参加下さい。25年1月26日には、青森県が当番県の最後となります東北陸上競技協会の理事会を青森市で開催します。(文責:理事長 安田 信昭)

JAAF 一般財団法人山形陸上競技協会

YAMAGATA

〒994-0103天童市大字川原1445番地2
TEL : 023-657-3070 FAX : 050-7561-0534
<http://jaaf-yamagata.jp>

ぎふ清流国体は、「チーム山形」を合言葉に善戦、準優勝2種目を含む5位以内が7種目でいずれも少年男女が大活躍、天皇杯20位、皇后杯26位と近年にない好成績を取めました。その勢いを駅伝に繋げようと、指導者・選手が一体となって頑張っています。

1月の都道府県対抗駅伝、女子は過去最高の3位に近づこう、男子は40位台脱出、を目標としています。間もなく雪の季節となり、トラックやロードでの練習が大変厳しい環境ではありますが、「克雪・克己」、雪国ならではの工夫で乗り切ってくれるものと期待しています。(文責:専務理事 矢萩 治男)

JAAF 一般財団法人岩手陸上競技協会

IWATE

〒020-0822盛岡市茶畑2丁目8-27
TEL : 019-621-8460 FAX : 019-656-9006
<http://long-distance.jp/iwate/>

平成24年度の10月末の秋季陸上大会を終え、今シーズンのトラック競技がすべて終了し、残すところ、駅伝とロードレース競技会だけとなりました。

昨年の3月11日の大震災から、多くの選手も競技へ復帰し、その中で多くの好記録を残してくれました。県新記録が8種目、県高校新記録が5、県中学新記録が3と、近年になく好記録が出たということは、平成28年開催予定の2巡目国体に向け、大いに励みになったと感じます。今後の選手の一層の頑張りに期待したいものです。

JAAF 福島陸上競技協会

FUKUSHIMA

〒960-8135福島市浜渡町3-41
TEL : 024-534-0331 FAX : 024-534-0339
<http://gold.jaic.org/fukushima/>

トラックシーズンが終了しロードレース・駅伝が中心の活動となっています。11月には第28回東日本女子駅伝が福島市で開催。18日には第24回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会を51市町村の参加を得て、白河市をスタートし、96.5km16区間、中学生より大人までの男女が、市町村の榮譽をかけ、福島県庁前にフィニッシュ。沿道の応援や、関係市町村の関心の高さは特筆するものがある。特に原発・津波で影響を多く受けた、浪江町・双葉町・大熊町・富岡町・楢葉町・広野町・飯館村については、日本各地に散らばっている選手を招集し、参加してくれたことには感謝の念で一杯です。この駅伝は中学生の発掘に大いに役立っており、佐藤敦之選手(中国電力)・藤田敦史選手、村上康則選手(富士通)・小川博之選手(八千代工業)等の実業団選手も走ってレースを大変盛り上げてくれました。(文責:理事長 佐藤 勇)

JAAF 宮城陸上競技協会

MIYAGI

〒981-0122宮城県利府町菅谷字館40-1 宮城県総合運動公園内
TEL : 022-767-2194 FAX : 022-767-2194
<http://www.miyaginet.com/mrk/>

トラックシーズンが終了し、ロードレース競技大会が県内各地で盛んに開催されています。10月28日、第30回全日本大学女子駅伝対校選手権大会を仙台市内のコースで終了いたしました。11月中旬には県の男子・女子駅伝競走大会を2年ぶりに実施しました。被災した各市・町からもチームを編成し参加、元気な走りを見せてくれました。

また、12月16日は第32回全日本実業団女子対抗駅伝競走大会を実施します。宮城で開催するのが2日目、女子のトップ選手が走ることで多くの人達に愛される大会になる様に「Queen's Ekiden in MIYAGI」の愛称も決まりました。

一日も早く元気が戻せる様、頑張っております。(文責:理事長 殿内 信一)

JAAF 茨城陸上競技協会

IBARAKI

〒311-4151水戸市姫子2-349-13 潮田茂様方
TEL : 029-253-4661 FAX : 029-291-5362
<http://irk.bent.jp/>

岐阜国体では、成年女子10000m競歩の川崎選手(富士通)・少年女子共通やり投の斎藤選手(土浦湖北)が優勝を果たしたものの、天皇杯28位と苦杯をなめる結果で幕を閉じた。有力選手が相次ぐ怪我に見舞われた一面も否定できない。しかし、過去3年間10番台の中位置をキープし、7年後に2巡目国体を控えて選手強化に動じ木県にとっては、衝撃的ともいえる結果であった。11月に入り、今大会の反省を踏まえながら来るべき国体本番を見据え、強化会議を開催。ジュニア強化のために小学生指導者やクラブ指導者を強化部内に数多く組み入れ、選手発掘を含めて一貫した指導体制を図ることを決めた。従来の合宿に加え、小・中・高・成年強化選手による年4回の合宿を含めた練習会を計画。平成31年茨城国体の天皇杯獲得を目標とする本県にとって、確かな手ごたえを得た会議であった。(文責:理事長 潮田 茂)

JAAF 栃木陸上競技協会

TOCHIGI

〒320-0058宇都宮市上戸祭3丁目7-30 藤佐収様方
TEL: 028-624-6351 FAX: 028-624-6351
<http://www.jaaf Tochigi.jp/>

シーズンはトラック競技からロード競技へと入ってきました。7月に関東信越地区高等専門学校体育大会陸上競技大会、10月には第32回九校医科大学対抗陸上競技大会の開催に関わりました。両大会とも、運営に携わった地元の小山工業高等専門学校・自治医科大学医学部の陸上競技部の部員や職員の方々の準備の良さ、大会当日の対応の早さに驚かされました。大会は若々しい参加選手、一人ひとりが競技を十分楽しんでいる姿に感動させられました。審判した担当もパワーをもらえる大会となりました。

東日本震災のため平成23年度には中止となった元気あふぶいフマラソン大会を1月に開催します。スムーズな大会運営ができるよう邁進したいと思います。

JAAF 一般社団法人東京陸上競技協会

TOKYO

〒160-0021新宿区歌舞伎町1-28-3 武井ビル4F
TEL: 03-3203-6123 FAX: 03-5292-0196
<http://www.toriku.or.jp/>

2020年に東京へオリンピック・パラリンピックを合言葉に、いろいろと行事を展開している。その一つとして、11月3日に東京都と一緒になって味の素スタジアムで味スタ6耐レースを開催し、競技者、観客など2万人を集め、42.195kmフルマラソン（ソコ、リレー）、6時間レースに酔いしれた。また、東京国体の主会場である同競技場では、東京国体のキャラクターのゆりーとのデモなど盛り上がりを見せていた。一方、日本選手権、スポーツ祭東京2013（東京国体、全国身障者スポーツ大会）など平成25年度のビックな大会の準備を進めると並行して、東京陸協では公益財団法人の認定を受けるべく準備をしており、忙しい1年となってきた。

JAAF 一般財団法人群馬陸上競技協会

GUNMA

〒370-0871高崎市上豊岡町145-5 今井酒店気付
TEL: 027-345-7790 FAX: 027-345-7791
<http://gold.jaic.org/gunma/index.html>

新年を飾る「ニューイヤー駅伝」の準備も佳境に入ってきました。群馬県での開催も早いもので26回目を迎えます。道路事情・社会情勢も刻々と変わる中、群馬県、県警、群馬陸上競技協会とも綿密な調整を進めています。群馬で開催される唯一の大規模大会として、会員一同、緊張感を持って大会運営に当たりたいと考えています。

ここ数年は最終区までもつれるレースが多く、数々のドラマと感動を我々に与えてくれています。今回はどのような戦いになるのか？ 13年連続で出場する、地元「SUBARUチーム」の活躍に期待しつつ、新年の一番初めに大会運営を行える責任と喜びを感じながら元日を迎えたいと思います。

JAAF 神奈川陸上競技協会

KANAGAWA

〒231-0012横浜市中区相生町1-18 光南ビル5F-B
TEL: 045-210-9660 FAX: 045-210-9667
<http://www.kanagawariku.org/>

11月11日に行われた「東日本女子駅伝」は昨年に続き大会新記録で連勝できました。各カテゴリーの競技者がチームワーク良く頑張ってくれた成果です。今後この勢いを年明けの京都につなぐことが大切と思っています。男子も女子の活躍を刺激し広島で過去最高順位を目指しています。

また、11月18日に行われた「横浜国際女子マラソン」は風が強い中、大会記録が更新され無事終了しました。今回で4回目となるこの大会、コースも3回目と同様となり、競技役員も慣れてきました。そのためにスムーズな運営ができました。

また、他都道府県に遅れてはいますが、法人化に向けての定款も完成し、代表委員会にて承認されたならば、速やかに手続きを進めていきたいと思っています。（文責：理事長 橋川 眞佑志）

JAAF 一般財団法人埼玉陸上競技協会

SAITAMA

〒362-0034上尾市愛宕3-28-30 県営上尾運動公園陸上競技場気付
TEL: 048-771-4248 FAX: 048-772-4566
<http://sairiku.net/>

トラック&フィールドに別れを告げ、いよいよ駅伝シーズンが到来しました。

11月3日(祝)に東日本実業団駅伝が、男子は県庁・女子は新都心をスタートして、熊谷陸上競技場をゴールに男子26、女子12チームが戦いをくりひろげ、男子コニカミノルタ・女子はユニバーサルエンターテインメントが優勝しました。この大会は男子53回・女子23回を数える伝統ある大会で、男女同時埼玉開催が今年で5年目です。7日(水)には、同競技場を中心に県高校駅伝が開催され、男子は埼玉栄高校が3区で連覇し、そのまま32回目の優勝。女子も埼玉栄高校が全区間で区間賞を獲得し、他校を圧倒、20回目の優勝を果たしました。全国高校駅伝での快走を期待しているところです。

JAAF 山梨陸上競技協会

YAMANASHI

〒400-0024甲府市北口2-14-14 山梨文化会館東館内
TEL: 055-251-4581 FAX: 055-251-4581
<http://yamanashitf.web.fc2.com>

本年前半、トラック&フィールドの選手強化面での明るい話題が多かった。佐野夢加選手のロンドンオリンピック出場、岐阜国体での野澤浩佑選手400mH 2位、800m 3位、剣持クリア選手走幅跳6位、ジュニア・ユース大会では剣持早紀選手三段跳優勝、近藤祐未選手三段跳3位など有終の美を飾ることが出来た。後半、駅伝シーズンに突入する。県大会において中学校では榎形中が、高等学校では山梨学院附属高がそれぞれアベックで優勝し、山口と京都での全国大会に挑む。新しい夢に向かって活躍してほしい。また正月の箱根駅伝での山梨学院大学の活躍を大いに期待したい。これからも小規模協会の特性を活かしながら「山梨はひとつ」の合言葉の下、一致結束して前進する協会をめざしたい。（文責：理事長 保坂 一仁）

JAAF 千葉陸上競技協会

CHIBA

〒263-0011千葉市稲毛区天台町323
千葉県総合スポーツセンター 国際千葉駅伝事務局内
TEL: 043-252-7311 FAX: 043-252-7314 <http://www.jaaf-chiba.jp>

秋のトラックシーズンも中学、高校の新人大会、岐阜国体で終了し、駅伝競走やロードレースシーズン到来となりました。10月21日に実施された2012ちばアクアラインマラソンは好天の下、成功裡に無事終了することができました。11月23日の国際千葉駅伝では、ケニア2連覇、日本チームは惜しくも2位となりましたが、ロンドン五輪メダリストや上野裕一郎選手の快走、新谷三美選手の区間新記録などが大会に華を添えてくれました。

中学校、高校の全国駅伝大会への出場校も決まりました。晩秋の福島路を櫛で繋ぐ東日本女子駅伝で本県チームは4位に終わりましたが、年が明けてからの男女の全国都道府県対抗駅伝大会は続きます。実力ある実業団チームの選手を軸に上位入賞を目指します。

(文責：強化委員会駅伝部長 渡辺 俊明)

JAAF 一般財団法人新潟陸上競技協会

NIGATA

〒950-0933新潟市中央区清五郎67-12 東北電力ビッグスワンスタジアム内
TEL: 025-257-7636 FAX: 025-257-7691
<http://www.nrrk.net/>

駅伝シーズンが始まりました。全国大会の出場チームは次の通りです。実業団は、男子が重川材木店、女子が新潟アルビレックスランニングクラブ。大学は、男子が新潟大学、女子が新潟医療福祉大学。高校は、男子が甲越高校、女子が新潟明訓高校。中学校は、男女とも十日町吉田中学校。

県縦断駅伝では上越市が優勝。県女子駅伝では長岡ACが懇願の優勝を飾りました。県外の駅伝でも東日本女子駅伝で本県チームが8位入賞と活躍しました。先日全国男女駅伝の最終選考会も終了し、いよいよ1月に向けて始動です。今後の新潟県の活躍に大いに期待して下さい。

強化関連情報(強化委員会) —————	166
2012年度第1回日本グランプリシリーズ協議会報告	
強化委員会記者懇親会報告	
2012国際千葉駅伝報告(強化副委員長 中長距離・ロード部門統括 酒井勝充)	
2012年度U-15陸上競技指導者中央研修会報告 —————	171
(普及育成委員会 舟橋昭太)	
IAAF選手コミッション会議報告 —————	172
(IAAF選手コミッション委員 室伏広治)	
アジアマスターズ陸上競技協会総会参加報告 —————	173
(IAAFマスターズ委員会委員 室伏重信)	
AIMS理事会及び30周年記念式典に参加して(副会長 澤木啓祐) —————	174
2012年度「キッズアスリート・プロジェクト 夢の陸上キャラバン隊」について —	176
(事務局)	
大会観戦ガイド —————	179
陸協NEWS —————	180
事務局からのお知らせ —————	182

陸連時報編集委員

◇編集委員

野野 洋平 (陸連会長)
横川 浩 (陸連副会長)
三宅 勝次 (陸連副会長)
澤木 啓祐 (陸連副会長)
尾縣 貢 (陸連専務理事)
原田 康弘 (陸連強化委員長)
風間 明 (陸連事務局長)
高橋 克実 (陸上競技マガジン編集長)

◇時報編集室責任者

森 泰夫

◇時報編集担当

繁田 進
石塚 浩
木越 清信
宮田 宏
本田香代子
森谷 真咲

事務局からのお知らせ

◆◆公式動画サイトに、ジュニアオリンピック&日本選手権リレーを公開!◆◆

日本陸連公式動画サイト“JAAF JAPAN ATHLETICS.TV”では、10月26日(金)～28日(日)に開催した第43回ジュニアオリンピック・第96回日本選手権リレーの全種目決勝動画をアップしています!リザルトを見ながら高品質の動画をぜひお楽しみ下さい!

<http://japanathletics.tv/>

◆◆日本陸連トレーナーセミナー開催案内◆◆

日本陸連医事委員会トレーナー部では、2013年3月29日(金)～31日(日)に味の素ナショナルトレーニングセンターで第21回日本陸連トレーナーセミナーを開催します。

参加資格・申込等の詳細は「日本陸連トレーナー」で検索か<http://www.jaaf.or.jp/trainer/>をご覧ください。

JAAF



日本陸連公式マスコット
“アスリオン”



公 告

「陸連時報」は、公益財団法人日本陸上競技連盟定款第4条第6号の「機関誌」の性格を有するものでありますが、毎月「陸上競技マガジン」と一体として発行しています。陸上競技に関する啓発記事のほか、必要に応じて、評議員会、理事会の決定事項、各専門委員会、事務局からの報告、通達も掲載いたします。本時報に掲載した通達は、公式に通達したものと取扱わせていただきますので、登録競技者は本時報の掲載内容にご注意下さい。また、陸上競技指導者の方は、所属競技者にお知らせ下さるようお願いいたします。 公益財団法人 日本陸上競技連盟

陸連時報に関するお問い合わせ、ご意見・ご感想は下記までお寄せ下さい。

陸連時報編集室

〒150-8050
東京都渋谷区神南1-1-1
岸記念体育会館3F
公益財団法人日本陸上競技連盟事務局 内
TEL 03-3481-2300
FAX 03-3481-2449
ホームページ <http://www.jaaf.or.jp/>
公式動画サイト <http://japanathletics.tv/>